

地域資源「雪」を活用した景観教育の実践*

Efforts for Landscape Education by Utilizing Snow, a Local Resource *

藤井美智子**・富田 真未***・芝崎 拓****・宮本史大*****・原 文宏*****

By Michiko FUJII **・Mami TOMITA***・Taku SIBAZAKI****

Fumihiko MIYAMOTO*****・Fumihiko HARA*****

1. はじめに

シーニックバイウェイ北海道は、道をきっかけとして、地域住民が主役となり、行政や企業などと連携しながら、広域的に「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」に取り組み、愛着と誇りの持てる地域の実現を目指す取り組みである。景観をテーマとした教育の実践については、「小学校における景観教育の実践」1)にて、小学校教諭とともに、景観、観光、地域づくりを視点とした教育プログラムの開発と模擬授業の実施を報告しており、景観教育の実践は、住民一人一人の公共心を高め、より良い社会形成につながると考える。平成18年2月、シーニックバイウェイ北海道大雪・富良野ルート旭川市西神楽において、北海道の冬の地域資源である雪と景観を楽しむアートプロジェクト「ウィンターサーカス（雪のランドアートの制作）」を実施。自分たちの身近にある、景観・地域資源を活用した、教育の実践は、自分の住む地域の魅力や、課題をみつめ、地域への興味関心を深めるとともに、愛着を育むと考える。また、アートという感性・想像力を必要とするプログラムの実践は情操教育を含め、次代の景観や地域づくりの担い手育成に繋がると考える。本論文では、地域資源である「雪」を活用したアートプロジェクトのプロセスにおいて、アーティストが地域に入り作品を制作する、アートインレジデンスを通じた社会教育及び、子どもを対象とした景観教育の実践について報告するとともに、景観教育を実践するうえでの課題を整理するとともに、地域、学校、外部専門機関等との連携の可能性について考察する。

*キーワード：学校教育、総合学習、道路交通

** 正員（社）北海道開発技術センター

（北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地

TEL011-271-3028、FAX011-271-5366）

*** 非会員、（社）北海道開発技術センター

**** 非会員、（社）北海道開発技術センター

***** 正員、（社）北海道開発技術センター

***** 正員、（社）北海道開発技術センター

2. 地域資源「雪」を活用した景観教育の実施

(1) アートプロジェクトを通じた社会教育

シーニックバイウェイ北海道_大雪・富良野ルートを舞台に、地域資源である「雪」を活用し、芸術創作活動（ランドアートの制作）を行うアートプロジェクトを実施。アーティストが地域に入り、作品を制作するアートインレジデンスを通じた社会教育を実践する。

表-1 プロジェクトの概要

■名 称：ウィンターサーカス
■実施時期：2006年2月/2007年2月
■実施内容：1. 雪のオブジェの制作 2. 夜間鑑賞会の実施 3. 自然観察（春までの経過記録） *子どもむけ雪のワークショップ
■実施箇所 2006年：旭川市西神楽（1箇所） 2007年：シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート（旭川市西神楽、上富良野町深山峠・見晴台公園・白銀荘、富良野寒々村：全5箇所）

表-2 プロジェクトの流れ

日 程	項 目
12月11日～25日	作品募集
12月末	制作作品の検討
1月上旬	各地域と調整→制作作品の決定
1月中旬	地域担当者とアーティストの顔合わせ（現地確認等）
1月下旬	制作に向けた準備（行程の確認等）
2月1日～15日	作品制作（各地域で制作サポート及び、滞在の宿泊場所確保）
2月17日・18日	夜間鑑賞会の実施
2月～5月	ランドアートが溶けていく姿を記録

a) 作品の募集

平成18年12月11日より、ホームページへ掲載し、作品募集を開始。下記、大学へ資料及び、ポスターを送付し、参加を呼びかけた。札幌市立高等専門学校、東海大学旭川校、教育大学旭川校。

b) 制作作品の検討

平成18年1月11日、各会場の担当者とルート全体を通してランドアートのバランスや会場の特徴等を含め、デザイン最終決定に向けた打合せを行った。各会場の担当者が具体的なデザインを目にするのは、この時が初めてであり、会場としての意図に合わないと感じる所や安全性や制作方法について、議論が進められ、深山峠と見晴台公園、白銀荘会場において、作品の再調整を行うこととなった。

■ 再調整となった会場

・深山峠

【主な理由】

- ・制作工程における費用・手間の負担が大きい
- ・安全性の確保が可能か不安
- ・夜の作品イメージがわからない。（昨年度、制作のたまご形のように、大きなスクリーンとなる形態に映像を投影するイメージをもっている。）

【調整事項】

→唯一の地元大学からの応募であり、今後の地域の人材育成や継続した場合の連携等も含め、現地の様子、要望も含め、制作側とデザインチーム合同での打ち合わせで、デザインを再検討

【決定】→制作側からの技術提案により、当初案での制作が決定

・見晴台公園

【主な理由】

- ・制作工程における費用・手間の負担が大きい
- ・人が乗る・集まる場合、安全性の確保が不安
- ・他の作品に比べ、具象的であり、シンプルなイメージと合致しない。
- ・夜はキャンドルのみ、映像を流すプログラムの記載がなく、夜の作品イメージがわからない。
- ・アーティストの受け入れの負担が大きい

【調整事項】→複数配置予定の作品の内ひとつのみを制作する、夜間のイメージをより具体化する等を作家と調整し、再検討。

【決定】→制作担当である上富良野町商工会とのデザイン検討会を開催し、最終案を決定

c) 作品制作

■事前調整：2007年1月11日～31日

(打ち合わせ後、雪もり等の準備を開始)

■制作期間：2007年2月1日～16日

制作の実施体制、方法等は、アーティストと制作チームの打ち合わせにより、それぞれの会場で決定し、現地滞在型、通っての制作、遠方からの経過確認等により、制作が進められた。安全性、制作費用、技術、地域特性などの課題から、デザイン案の再検討となる会場、当初、困難とされていたデザインが実現可能となる会場など、アーティストと制作チームの打ち合わせを重ねての実施となった。制作中において、技術面の不安、制作費用不足、天候不順に悩まされるなどの場面もみられたが、全ての会場において予定期日に作品が完成した。

表-3 制作作品一覧

会場	アーティスト、作品	特徴
旭川市 西神楽	五十嵐 淳 (建築家) 『Snow Pier / Snow Pool / Horizon / Sky』	遠方連絡型
上富良野 町 深山峠	北海道東海大学芸術工学科 くらしデザイン専攻製品コース (学生) 『Snow Forest』	近隣通い 型
上富良野 町 見晴台 公園	奥山 三彩 (彫刻家) 『Voyage』	滞在型
上富良野 町 白銀荘	富田 真未 (アーティスト) 『Sankakusui 山角錐』	遠方通い 型
富良野市 寒々村	富田 真未 (アーティスト) 『Tamago』	遠方通い 型

(2) 社会教育における成果と課題

【成果】

- ・アーティストという、外部者の視点により、地域を見直すきっかけとなった
- ・地域が共同し一つのものを作り上げることが、地域住民同士の絆が強まった。
- ・芸術作品の制作を進めるなかで、手間より美しさを優先する姿が見られた
- ・雪が降る、雪が融けていく姿を感じることで、地域の環境変化に敏感になる姿がみられた。

【問題点・課題】

- ・作品制作前のアーティストと地域で認識の差がみられた。プロジェクト自体としては、制作費用の及び制作人員の負担が問題であり、今後の課題として、地域住民の参加を促す、大学や地元企業との積極的

な連携が必要と考えられるが、地域から同様の声があげられたことは、成果である。

3. 学校と連携した景観教育の実践

前項で記載した、芸術創作活動（ランドアートの制作）に連動し、2006年より、地元の学校、教育委員会と連携した景観教育を試みている。雪をキーワードに、「地域」や「自然環境」等、講義を聴き理解する「基礎学習」と、得た知識を想像し、感性で表現する「アートワーク」の2部構成とする他、学習内容を「雪のアート展」と題し、夜間鑑賞会の会場に展示、子どもたちの地域活動への参加を促すと共に、親や他の地域住民への景観づくりの取り組み周知や関心の喚起など、二次的な教育効果を含めたプログラム構成とした。また、具体的なプログラムの検討にあたっては、小学校及び、教育委員会とそれぞれ、事前に意見交換を行い、児童の実態に沿ったプログラムとなるよう工夫した。

〔全体構成〕

- ・雪を知る；雪の特性など、雪についての知識を深めると共に、地域や景観、自然環境等の基礎学習を行う
- ・雪で遊ぶ；基礎学習と連動し、雪をテーマとし、想像、感性で表現するアートワークを行う
- ・冬を楽しむ；アートワークで制作した作品を、夜間鑑賞会の会場へ展示し、こどもの地域活動参加を促し、地域への関心を喚起する（後日、任意参加）

（1）聖和小学校における景観教育の実践

事前のプログラム検討において、低学年、中高学年において、それぞれ学習能力に応じた内容とすること、2007年においては、継続実施となることから、前年度の内容を踏まえる等に配慮した。なお、初年度である2006年においては、「雪と雪のある景色」をテーマとし、基礎学習では、雪の性質を中心に、アートワークでは、西神楽の景観を背景に紙粘土によるランドアートの模型を制作。「雪」や「景色」そのものを理解するプログラムとしたが、2007年においては、「雪」を切り口として、環境問題を考える等、前年度の内容を発展したプログラムを実施。

■ 対象 低学年：7名/中高学年：16名

■ 日時 平成19年2月9日（金）各60分

低学年_ 13：30～14：30/中高学年_14：30～15：30

■ 景観教育プログラム実施概要

◇地域資源の基礎学習

〔低学年〕「雪を知ろう！」：雪の結晶の形など

〔中高学年〕「雪と地球環境」：雪を切り口に、地球環境について学習。地球の為に自分ができる事は何かを考える。

◇雪をテーマにした想像・表現活動

〔低学年〕雪の結晶フロッタージュ

〔中高学年〕雪のコラージュ：地球の為に自分ができることをメッセージとして作品に記載



◇冬を楽しむ！：地域イベントの開催とあわせ、西神の情報拠点にて、作品展示を開催。

（2）上富良野における景観教育の実践

上富良野町においては、教育委員会と連携し、プログラムの内容及び、開催に向けての役割分担等、事前の調整を行った。屋外での結晶観察、ランドアートの鑑賞を含めたプログラムを実施。

■ 対象 上富良野町内の小学校より公募

〔町内の3年生以上、定員20名〕

■ 日時 平成19年2月17日（土）13：00～17：30

■ 会場 図書館集合後、白銀荘へ

■ 景観教育プログラム実施概要

◇地域資源の基礎学習

「雪を知ろう！」：雪の結晶の形など

「雪の結晶観察」：画用紙とルーペで雪の結晶を実際に観察。

◇雪をテーマにした想像・表現活動

「雪で遊ぼう！」もしも自分だったら、どのようなオブジェを白銀荘に作るか考え、紙粘土で模型を作る。

◇「冬を楽しむ！」ランドアート模型を白銀荘に展示。



(3) 成果と課題

【成果】

- ・西神楽、上富良野町、どちらの会場においても、楽しんで児童が参加していた。
- ・西神楽においては、2006年より、2回目の実施であったが、「今年は、何をやるの」、「来年は、何をやるの」等の声が聞かれ、実施したプログラムに対しての興味・関心が伺えた。
- ・また、西神楽において、ほとんどの児童が地域で実施した夜間鑑賞会へ、家族で参加しており、子どもを通じた親への間接的な情報周知について成果がみられた。

【問題点・課題】

- ・現在は、課外学習での実施であるが、西神楽においては、児童の全員が希望していることから、今後は、総合の学習の時間を利用するなど、早期から学校と連携したプログラムの検討が望まれる。
- ・教育委員会との連携に留まっているが、今後、各学校でのプログラムの展開を視野にいれ、教育委員会と連携した教員への周知などを検討していきたい。



4. 地域資源「雪」を活用した景観教育の考察

本報告では、地域資源である「雪」を活用し、ランドアートの制作を通じた社会教育と、学校と連携した子どもを対象とした景観教育を一連のアートプロジェクトとして実践した。この試みは、子ども自身が教室の中で「学び」、「感じた」ことを、実際に、地域活動の中で追体験ができること。また、子ども達が学習した内容を、地域のイベントと合わせて展示することにより、直接的な教育が難しい家族や、地域住民に対する間接的な教育効果が得られることから、それぞれを単独で実施するより、相乗的な効果が高まると考える。また、一つの地域ではなく、複数の会場において、プロジェクトが展開されており、自分の地域以外の、広域的な視点をもつことにもつながると考える。さらに、アーティストが現地を訪れて、制作に参加することで、新しい感性

が地域に加わるとともに、外部からの視点であらたに地域を見直す機会になると考える。また、アーティストにとっても、地域の景観や、人からの刺激を受け、新たな発想が生まれる機会となると考える。



5. おわりに

身のまわりの景観や生活環境についての関心や興味を持ち、景観が人々の営みと深く結びついていることを理解し、地域の共有の財産として、景観を認識することが、魅力ある景観づくりの基盤となると考える。

「雪」という、北海道においては、どこにでもある見慣れた素材を活用したアートプロジェクトを体感することで、自分の住んでいる地域を見直す機会になれば幸いである。また、子どもから大人まで、自然環境に対して、地域に対して、自分が何かできるか考えるという行為は、公共心を高め、より良い社会の形成につながると感じる。今後は、これらのプロジェクトの継続を視野にいれ効果の検証を行いたい。

1) 藤井美智子ほか：小学校における景観教育の実践，土木計画学研究講演集，vol. 30，2005.